地域学校版

# ほっとニュース

宮城県立古川支援学校　特別支援部　NO. ４　　２０１８．８．３０　発行

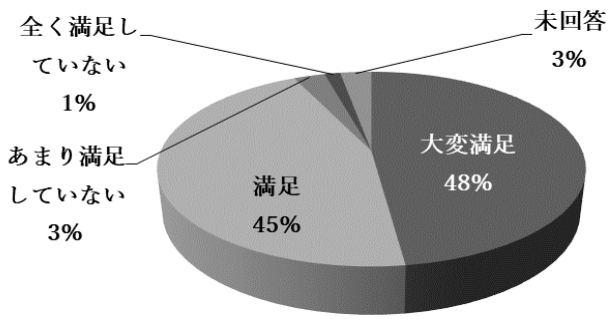
## ～ 公開講座へのご参加ありがとうございました ～

８月３日（金）大崎合同庁舎 大会議室を会場に，古川支援学校公開講座**「ほっと相談夏季研修会」**を行いました。講師に，**仙台白百合女子大学教授の氏家靖浩先生**をお招きし，**「発達につまずきのある子どもを支える支援」～本人理解と家族支援の視点から～**とのテーマでお話をいただきました。

氏家先生の豊富な臨床経験からのお話とユーモアのある語り口で，心と頭を柔らかくして学ぶことができ，時間があっという間に感じた研修会でした。

当日は，小中学校，中学校の先生方，本校の職員を合わせ，８０名程の皆さんに参加いただきました。参加された先生方には，アンケートの記入にご協力をいただきありがとうございました。

**〇講演会につて**　　＊アンケート回収率８９％



**＜参加者からの感想＞**

- 私が関わっているのは，未就学児でありますが，今後の子どもにも通ずるものがあると気付くことができました。また，保護者の対応についても学ぶことができました。楽しく学べる場は初めてだったので，また参加したいです。
- 子どもと関わる関わり方，声の掛け方など，教師の全部が問われているのだと気づかされました。ありがとうございました。
- 楽しく興味深く，聞くことができた。
- 氏家先生のお話を久しぶりに聞かせていただきました。笑いの中にも大切なことをちりばめて教えていただき，ためになりました。このような機会をいただき，支援学校さんにも大変感謝しております。ありがとうございました。
- ざっくばらんなエピソードの中に，真実やキーワードがちりばめられていて，とても楽しい講演であった。この先生の話を聞いてみたいと思わせる話術，講演がとても学ぶべきことがあった。
- 本日はたくさんのお話を聞かせていただきありがとうございました。特別支援の講座は初めてだったのですが，笑いがあふれるほっとする講演でした。小学校に勤めて２年目ですが，学級に様々な子どもたちがいます。先生が言っていた多様化を感じています。大変しんどいと感じて自分を責めてしまうこともありましたが，学校の先生方の協力もあり，今を過ごしています。舌耕芸，練習してみます。これからも児童と向き合い，良い方向に一緒に考え続けていきたいと思います。
- 笑う場面もありながら，子どもたちに対する対応の仕方，大切なことを気付き，学ばせていただきました。２学期にさっそく取り組んでいきたいと思いました。
- 児童生徒の理解や関わり方について，改めて大切なことを確認できました。家族への支援や家族（保護者）との関わり方について，もっと話を聞きたかったです。
- 信頼関係を築くことが大切という当たり前のことを再確認できた。１時間１５分の予定が１時間４８分くらいになり，もっとお話ししたそうでした。
- 教室の中の気になる子どもを想像しながら聴きました。自分が変わらなければと思っています。今後，生かしていきます。ありがとうございました。

☆　裏面　研修会の内容について掲載

ほっと相談夏季研修会

# 「発達につまずきのある子どもを支える支援」　～本人理解と家族支援の視点から～

仙台白百合女子大学　教授　氏家　靖浩　氏

**多様性の時代**

**マイノリティ**

- 貧困家庭の子ども　16%
- 家庭の機能が不全　8%
- 発達障害　6.5%
- LGBT　7.6%
- 食物アレルギー　5%
- 喘息　3%
- 色覚困難　5%
- 不登校　3%

54.1%

少数派が半数を占める
クラスの半分の子どもが，何らかの配慮や支援を必要とする状況であるということ

**時代の変化**

※これまでの指導，対応方法では通用しない時代であることを認識することが必要

**気になる子への指導**

陥りがちな支援

一方的な支援

- 指導者側の思いだけでは上手くいかない
- 目の前のことにとらわれ過ぎない
- 「ダメ」の指導は，否定となる
- 責めることで，反動が出る

足並みのそろわない支援

- 子どもの立場不在の意見交換
- 相手の立場を考えない
- 専門家同士の自慢話
- 冷静さを欠いた感情の突出

支援のポイント

＊時間軸に視点を向ける・・・過去（これまでの育ち），未来（将来の可能性）
＊想像力を活かして・・・他の場所での姿（家庭でどのように過ごしているか？）
＊同じ～低いくらいの目線で向き合う・・・大変と感じる子どもに寄り添っていくプロセスが大切（子ども理解）
＊発想の転換・・・「大変だ」と思うと何も始まらない　→「実におもしろい」「実に興味深い」
**子どもとの向き合い方が変わってくる**
**※「国際生活機能分類（ICF）」の考え方**
＊立場の違いを知る・・・親は子どもの将来の責任をもつ
教師は子どもの将来の責任はもてない　→的確な判断，評価と伴奏者としての役割
**短期間でも真正面から子どもと向き合っているか**

**正解は一つではない**

## 関わる者が悩むことが大切

＊観察力が求められる
＊カウンセリングマインド…相手が話したくなる雰囲気をもち続ける
＊舌耕芸（言葉により心を耕す）…情感をもった対応→大切にされていると思える
**※内容，言い方，声の出し方，タイミング**
**障害への気づきにつながる**

※人間関係を作った上で，初めて指導が可能である。
※気になっても責めない。支援は，受け止めることから始まる。

## 生涯発達に伴う障害

【統合失調症】

・思春期に好発　15～25 歳
・100 人に 1 人は，なる可能性がある病気
・妄想のような誤った考えにとらわれる
・信頼関係と薬で克服する

※若い時に発症した方がよい
　発症時に多くの人と関われる方が回復が早い

【うつ病】

・中年期に好発　環境の変化　女性のリスク高い
・極端な場合，人生で複数回，陥る病気
・多彩な症状が現れる
・十分な休養と薬の上手な活用で乗り切る

※睡眠の状態が判断の手掛かりに
　寝入りが困難　→健康
　寝ているのに起きている　→病気

【不登校】

・10 人中９人は回復
・10 人中 1 人は，ひきこもり，統合失調症に

※どう休ませるかを考えることが大切
　・出席日数の問題は切り離して考える
　・居心地の良い場所を作る，探す
※家から出す
　・行ける場所，待ってくれる人がいる
　　ない状態であれば，一緒に考えるプロセスが大事
　・社会の中に所属する場があった人は次のステップに進める可能性が高い

【いじめ】

・子どもの言葉で考える
　これは「いじめ」ですと切り取られない
・いじめの関係にある者が使う表現
・いじめの関係にないものが使い表現

※誰の何が不快か？　敏感になるべき
※いじめっ子，いじめられっ子は流動的
※傍観者がいじめっ子を加速させる
※傍観者をいかに教師側に巻き込むかが重要
　外堀を埋める対応

## 支える支援のコツ

・子どもと思いっきり遊べていますか？
・先生の呼吸は合っていますか？

① 拒絶する子どもにどう向き合うか
　・関わる頻度に関わらず，とにかく「声掛け」を多くする
　・無視されて当たり前というくらいの気持ちで「何度でも」

②混乱してしまう子どもにどう向き合うか
　・アンガーマネージメントを確認
　・混乱時　→命の保護を最優先に　声掛けだけは穏やかに。
　・日常的に（冷静な時に）　→信頼関係を築くしかありません。
　　「どんな時，ああなるの？」と尋ねることを目標に。

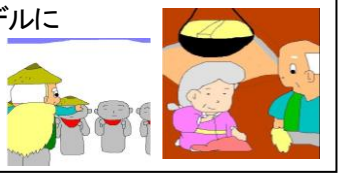
③気がかりの原因が不明な時の対応
　・複数の関係者による「いつ・どこで・何が」といった行動観察の徹底
　・校外機関との連携の前に，まず校内での情報の共有を大切にする

先生方の見る目を鍛える
↓
未然発見
できる先生が多くなると好循環に！

④関わりが少ない子どもに関わるコツ
　・自己紹介はされているか？　担任であること≠子どもと関係ができている
　・関係が築けていない人の話に耳を傾けることができるか？
　・同僚の先生との連携をもう一度考えてみることも大事　　一人で何とかしようとしない
　・同僚同士で意見が言い合える関係、環境づくりが必要

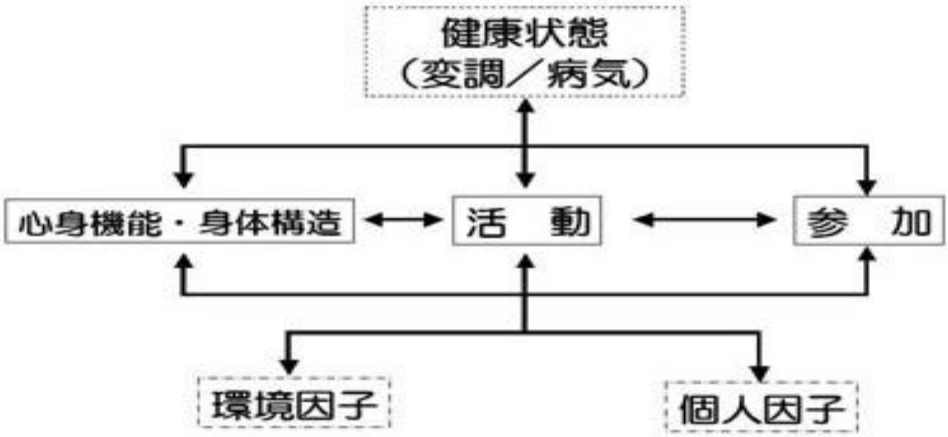
※大切なのは，話を聴き，受け止めていることを伝えること。

お話「笠地蔵」のおばあさんをモデルに



## 「ICF」とは？

「国際生活機能分類（ICF）」は，2001 年 WHO において採択された障害の発生原因の捉えと困難改善の方策を検討する枠組み。障害者の活動や社会参加を制限する因子を，障害者個人の課題ではなく社会全体の課題として捉え，人の生活機能に視点をあて，「心身機能・身体構造」「活動」「参加」の３つ側面から，障害者の「生」の目標実現に向けて適切な支援を検討しようとするものです。




※生活機能に何らかの問題が生じた状態を「障害」とする。
※すべての人に当てはまる分類である。障害は誰もがもちうる（障害のある人が特別ではない）
※障害のある人を「何もできない（他者より劣る）特別な人」と見るのではなく，生活する上で何かの不自由さや困難さを抱えている人と考える。→これまでの障害者観からの発想の転換
※人々の生活機能（心身機能・構造，活動，参加）の状態をその人をとりまく環境も絡めながら評価することで，必要な支援，サービスの方向性を検討していくことができる。
（参加を実現するための環境因子を考える）

# ～ 研修会についてのお知らせ ～

お申込みは，
各市町教育委員会へ！

## 後期インクルーシブ教育理解研修会

**宮城県の特別支援教育の充実と体制整備に向けて，インクルーシブ教育の推進を目的に，県内３会場（北部・中央・南部）にて研修会を開催**

**○主催**：宮城県教育庁特別支援教育課

**○対象**：母子保健及び保育に関わる機関の職員，幼稚園，認定こども園，
小学校，中学校，中等教育学校，高等学校及び特別支援学校の教職員
並びに保健福祉事務所及び教育事務所，市町村教育委員会に関わる職員等
＊内容は，一般向けではなく，指導者に向けた内容

### 後期：テーマ
### 「ユニバーサルデザインの視点による授業づくり」

| 開催ブロック | 開催日 | 会場 | 講師 | 事務局校 |
|---|---|---|---|---|
| 北部ブロック | 10月22日（月） | 登米合同庁舎 | 宮城学院女子大学<br>教授　梅田　真理 氏 | 気仙沼支援学校 |
| 中央ブロック | 10月16日（火） | 光明支援学校<br>（小学部校舎） | 星槎大学大学院<br>准教授　阿部利彦 氏 | 小松島支援学校 |
| 南部ブロック | 10月5日（金） | 大河原教育事務所 | 杉並区済美教育センター<br>指導教授　月森久江 氏 | 岩沼高等学園 |